

第1学年 国語科の実践

1. 単元名 「くじらぐも」(全9時間 本時5時間目)

2. 単元目標

- ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
- 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体をとらえることができる。
- かぎの使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。
- 積極的に想像力を広げて楽しみながら物語を読むことができる。

3. 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題「子どもが解決したい課題をもち、
友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて・・・子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり
低学年ブロックテーマ「感じる心、素直に表現する自分」
・人の言動に何かを感じる姿
・自分の思いや他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿

<聴く・話すについての指導>

「聴く」ことについては、話す人を見て、最後まで聴くことを指導してきた。担任が話す時や友だちが「聴いてください」と声を出したときなど、相手の方を向き、静かにしようとするなど、聴こうと意識する姿も見られるようになってきた。しかし、まだ自分のタイミングで話をし始めたり、集中を切らせてよそ見をしてしまったりする児童がみられる。「ききかためいじん」「はなしかためいじん」などの話をしながら指導を続けている。

「話す」ことについては、話したい気持ちはあるものの、声が小さく全体に聞こえないことや、クラスのみならず教師に対して話してしまうことが多い。また、人前で話すことに対して大きな抵抗感を持つ児童もいる。

<これまでの関わり合い・ひびき合い>

自分の意見や考えを求められる場面で意見を言う児童が定着しつつあり、自信の無さからか友だちにお任せになってしまう児童や、聞かれていることに対する答え方が分かっていない児童もみられる。考える時間を確保し、近くの友達と相談したり、意見を聞いたりする時間を設けながら、自分なりの考えを持って授業に参加できるようにしたい。

「おおきなかぶ」や「おむすびころりん」で劇をした際には、登場人物とその発言がわかりやすく、みんなで一緒に読む部分が多かった。一方「やくそく」の学習では、登場人物それぞれの言葉が今までの学習教材より増え、その言葉が誰のものかという明確な文章が無いものもあった、「これは誰の言葉だろう。」「〇〇って書いてあるから□□が言ったんじゃない。」と意見を出し合い、「□□が言ったんだったら、大きな声で言ったと思う。」とクラスのみんなで想像し、考えながら文章を読む練習を少しずつ重ねている。話の流れや前後の文章、挿絵などから考えよう、読み取ろうとしている姿を認め、伸ばしていきたい。

4. 単元と指導について

<単元について>

本単元は、学習指導要領のC（1）エ「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。」を目標としている。場面の様子に着目して、登場人物の行動や会話について、何をしたのか、なぜしたのかななどを具体的に思い描きながら、その世界を豊かに想像することを示している。

本教材は、1年生の子どもたちが体育の時間にくじらぐもに出会い、空の冒険をする物語である。児童にとって、自分たちと同じ1年生が大空を舞台にして活躍する内容は、共感しながら楽しんで読むことができるだろう。物語の中の台詞が少ない分、場面の様子から「自分だったらこんなことを言う。」「くじらぐもに乗ってこんなところにも行きたい。」など想像をふくらませて読むことができると考える。思い描いた互いの考えを伝え合い、より物語の世界に浸れるようにしていきたい。

<指導について>

今まで、「おおきなかぶ」や「おむすびころりん」の物語で登場人物を確かめながら動作化を取り入れ、劇を行ってきた。役になりきるために、文には出ていない登場人物の言葉を考えたり、動物の動きや大きさなどを考えたりして、楽しみながら劇に取り入れる様子が見られた。「やくそく」の物語では、児童の初発の感想から「なぜあおむしたちは喧嘩したのだろう。」という疑問が出てきて、読み進めながら、クラスで考えて話し合いを行った。それまで読み取ってきた内容から考えて「～なんじゃない？」や「～だからだよ。」というように、根拠をもって話し合う姿が見られた。

本教材は、児童にとって身近な題材であることやこれまでの経験から、自然と「劇をしたい。」という思いが芽生えるだろう。そこで、以前の「おおきなかぶ」の学習を思い出しながら、より登場人物になりきるために、自分だったらなんと言うかを考えられるようにしていきたい。物語の設定や場面の様子を押さえながら、児童が考えたことを話し合い、物語を読んだり演じたりする楽しさを味わえるようにしたい。

本時では、3 場面の「子どもたちがくじらぐもに乗って空を旅する様子」を読み、劇をしたり話し合いをしたりする。児童は、「空の上だとどんな話をするかな。何が見えるかな。」ということを考えるだろう。そこで、空の旅をしているときの会話や台詞をみんなで共有するときに、自分の考えを素直に伝え、友達考えに反応しながら聴く姿をひびき合いの姿としたい。

5. 単元構想

単元目標

- ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
- 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体をとらえることができる。
- かぎの使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。
- 積極的に想像力を広げて楽しみながら物語を読むことができる。

「くじらぐも」ってどんなお話だろう①②

どんな形の雲を見たことがある？

- ・ソフトクリーム
- ・車
- ・うさぎ
- ・飛行機
- ・鳥
- ・ハート

- ・くじらの雲が出てきた。
- ・くじらに乗って空を飛ぶ話。
- ・空なのにくじらだった。
- ・乗ってみたい。
- ・なんで乗れたんだろう。
- ・乗るまねならできよ。
- ・みんなでジャンプしてるのが楽しそう。
- ・おおきなかぶみたいに劇ができる。
- ・やってみたい。

げきをするためにはなにをすればいいかな②

- ・くじらぐもが必要。
- ・ちょっと読んでみたい。
- ・たくさん練習する。
- ・くじらぐもの役とかに分かれる。
- ・動かないと劇じゃない。
- ・他にも何か言ってると思う。

「おおきなかぶ」の劇を思い出させながら、書かれていないことを考えて付け足す良さに気付かせるようにする。

【態】想像を広げながら楽しんで読もうとしている。(ワークシート・発言)

からだをうごかしながらよんでみよう③④⑥

体操をする子どもたち③

- ・体操楽しいな。
- ・空にくじらがいる！
- ・くじらも一緒にたいそうしたいんだね。
- ・くじらさん、遊ぼうよ。

くじらぐもに乗ろうとする子どもたち④

- ・まだまだだ。
- ・もっとがんばらなきゃ。
- ・あと少し。
- ・もう一回！
- ・やっと乗れた。やったあ。

くじらと別れる子どもたち⑥

- ・くじらさん、ありがとう。
- ・悲しくてまだ帰りたくないな。
- ・また来てね！
- ・今度は違うところに連れて行ってね。

どこで、何をしているのか場面を確かめる。

【知】語や文のまとまりに注意して音読している。(音読・練習)

くじらぐもにのったらなんていうかな？⑤(本時)

- ・あそこにわたしの家がある。
- ・たのしいな。
- ・雲の上はふかふかだ。
- ・きもちいいな。
- ・遠くまで来たなあ。あつ、海だ！
- ・海に魚がいっぱい！
- ・こっちは畑だ！

【思】場面の様子や登場人物の行動から想像をふくらませている。(ワークシート・発言)

グループに分かれて練習しよう⑦⑧

- ・くじらの役やりたい。
- ・もっとジャンプしなきゃ。
- ・大きい声で！
- ・くじらは上から言った方がいいよ。

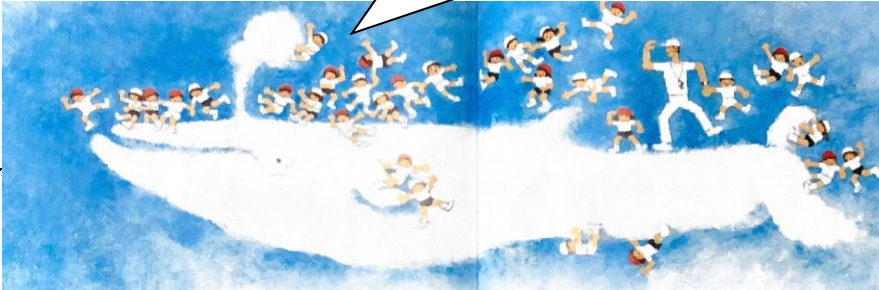
よい動きをしているグループを紹介する。

【態】読んで想像したことを劇で表現しようしたり友達と伝え合おうしたりしている。(練習・発表)

音読発表会をしよう⑨

- ・〇〇さんのくじらが上から大きな声で言っていて、本当にくじらぐもが言ってるみたいだった。
- ・「天までとどけ」のところが息がそろってた。

6. 本時について

本時目標 くじらぐもに乗って空の旅をする様子を想像し、自分が考えた会話を付け加えることができる。	
学習活動	主な支援・留意点
うみのほうへ さかながジャンプした。 ふねもみえるよ。 むらのほうへ 木がたくさん。 はたけがたくさんあるよ。 まちのほうへ じぶんのいえがある。 おかあさんだ。 ひとがたくさんいるね。 たかいなあ。かぜがきもちいい。 どこまでいくんだろう。 みんな小さくみえるな。 おちないようにしないと。 くじらぐもにのったら なんていうかな とおくまでいくぞ。 	・前の場面の確認をする。 ・個人で音読後、クラス全体でくじらぐもに乗ったときの様子を確認する。 ・必要があれば、教師が同じことや似ていることを書いた人はいるか問い返し、友達の考えと比べながら聴くことができるようにする。 ・考えた会話を入れながら音読練習をする。 ◆くじらぐもに乗って空の旅をする様子を想像し、会話を考えることができる。【思考・判断・表現】

7. 実践を終えて

本時は、「くじらぐもに乗った子供たちはなんというか」を挿絵をもとにしながら考えた言葉をみんなで伝え合った。「〇〇さんと同じです。」「似ています!」と自分なりに考えながら発言のタイミングを意識する姿も見られた。「きれいだな」と言った子の意見に「きれいだね。(海が) 光っているね。」と付け足しをしたり、「海が小さい」という子の発言に対しては「遠くから見てるからだと思う。」など考えを素直に伝え、友達の考えに反応しながら聴く姿が見られた。自分たちの言葉の入った音読劇をするという活動のゴールに向けて、考えを積み重ねていく様子に彼らのひびき合いの姿を見つけることができた。

成果

- ・本時では自分たちの住む地域の航空写真をモニターに映し、海のほうへ、村のほうへ、町のほうへ。とそれぞれの特徴を感じられる方面の写真を見せた。「三の丸小学校が見える!」「自分のうちだ!」と、見慣れたはずの自分の住む場所を興味深く見つめていた。青い海、木々の茂った地域にポツンとある畑や家の様子、空から見る建物の小ささなどを感じ、彼らなりに、くじらぐもに乗っている子供たちの視点を想像することができた。
- ・今回はくじらぐもに乗った子供たちが、海、村、町の方へ行った際にそれぞれどんなことを言うかを分けて吹き出しに記入できるワークシートを使った。それにより、「とおくまでいくぞ。」というくじらぐもの言葉の通りに、いろいろな方面へ空の旅をしたことがより明確になると同時に、短い言葉でいくつも台詞を付け足すことができた子が多かった。また、そのワークシートに記入した台詞が積み重なることで、劇全体の台本になっていくことを子供たちが理解できていた。

課題

- ・一部の子は、くじらぐものパネルを持ちながら、上から見下ろす動きを取り入れていた。このような動作化をさらに引き出せるとよかった。台を用意し、いつもより少し自分の視点を高くすることで、くじらぐもに乗って上から見下ろす感覚をイメージしやすくなり、「自分も言ってみたい。」「もっとやりたい。」という気持ちや、活動の中での静と動に繋がっていくのではないかな。
- ・グループでの劇の練習は、次は誰が考えた台詞を言う順番なのかわからなくなってしまうグループがあった。誰がいつ、どのような言葉を使うかをグループの全体で確認・共有しワークシートにメモできていると、よりスムーズに安心して練習ができたのではないかな。

